

海を越えて、想いを届ける

～「未来をつなぐ一冊プロジェクト」贈呈式～

2026.8.20



平岸マイプロジェクトで活動してきた2年生の中村さん、保川さん、平川さんが取り組んできた「未来をつなぐ一冊プロジェクト」。7月24日、これまでに集めた募金をモザンビークの子どもたちの教育支援に役立ててもらうため、贈呈式を行いました。

これまでの活動を通して、多くの方々から協力をいただき、目標額を大きく上回る 12 万 1810 円の募金が集まりました。3 人で始めた活動が、仲間や学校全体を巻き込み、大きな支援の輪へと広がりました。

そして迎えた贈呈式。会場には、モザンビークで教育支援に携わる榎本さんと、モザンビーク出身のナジャさんが参加してくださいました。

3 人は、これまでの活動を振り返りながら、集まった募金を榎本さん、ナジャさんへ手渡しました。自分たちが一つ一つ声をかけて集めた募金がいよいよ海を越えて現地の子どもたちのために使われる。そのことを実感し、3 人にとって大きな達成感を味わう瞬間となりました。

榎本さんからは、モザンビークの教育の現状や、今回の募金がどのように活用されるのかについてお話をいただきました。集まった募金は現地でノートを購入し、子どもたちの学びを支えるために届けられる予定です。



また、モザンビーク出身のナジャさんからは、現地で生活や教育についてのお話を伺いました。ナジャさん自身もモザンビークの寺子屋で学んだ経験があり、現在は子どもたちの教育支援に携わっています。

実際にモザンビークで学んだ経験を持つナジャさんの話を聞くことで、生徒たちは、自分たちが届けようとしているノートが、そこで学ぶ子どもたちにとってどのような意味を持つのかを、より身近に感じることができました。



贈呈式の後には、ナジャさんとの交流や記念撮影も行われました。民族衣装を見せていただいたり、モザンビークについて話を聞いたりする中で、3 人は笑顔を見せながら交流を深めました。

4 月に 3 人で始めた「子どもたちの力になりたい」という思いは、学校の仲間を動かし、多くの方々の協力につながりました。そして今、その思いは海を越え、モザンビークの子どもたちの学びへとつながろうとしています。

今回の贈呈式は、3 人にとって、自分たちの「やってみたい」が実際に誰かの力になることを実感する大切な機会となりました。